

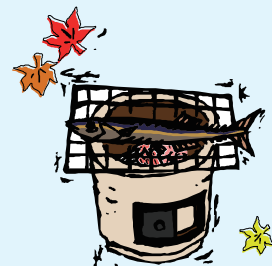


～秋になると
食べたいもの～



印藤 晴子

もう10年以上前から、秋には干し柿を作っています。果樹園に柿を予約しておき、届くと必死で皮をむき、紐に吊るして、干します。昼は外の通路に吊るし、夜は社内に入れて2週間のスタッフと知人に配るためのものですが、今では楽しみに待っていて下さる方もいて…嬉しくて毎年はりきってしまいます。さて、スタッフが楽しみな秋の味覚は？



秋には、サンマの塩焼きに大根おろしとカボス(出身が大分なので)をかけて食べるのが最高の楽しみです。それも七輪で焼いたサンマがいいですね。子どもの頃は七輪を使っていましたが、今はマンション暮らしでできません。でも実家に帰った時は、七輪を出して焼いています。七輪に輪っかを敷いて、その上に網を置き、遠火の強火でむらなく焼くのがコツです。焼く時間も含めて、小さな秋の贅沢です。



後藤 小百合

秋にはモンブランが食べたくなります。他にもコンビニなんかで期間限定で売り出される、栗のクリームを使ったスイーツは買いますね。実は子どもの頃、塩茹でした栗の中で虫が動いていて、ショックを受けたことがありました。気持ち悪かったけど、栗嫌いにならなかったのは、茹でられても生きている生命力にちょっと感動したからでした。以来、栗は食べずに、栗スイーツを食べるようになりました(苦笑)。



重富 幸治郎

私も重富さんと同じで、いちばん好きな秋の味覚は栗です。でも、塩茹でして食べる素朴な味が大好きで、栗スイーツは邪道ですね(笑)。時々、栗の木の下を通ると実が落ちていて、拾ってみたりしますが、どれも中身が入っていないような小さなものばかり。やっぱり売られている栗は、生産者が手塩にかけて育てているから、大きくて美味しいんだなぁと一人で納得し、市場に行って栗を買っています。



古賀 ちはる

秋は巨峰と柿です。幼い頃に巨峰狩りに行ったことがあって、その時の記憶では「巨峰は、口に入りきらないくらい大きなブドウ」だったんです。だから今でもついで、口に入りきらないような大きな粒の巨峰を探してしまいますが、大人になった私の口に見合う巨峰には出会えませんね(涙)。柿は秋はそのまま、冬は干し柿で食べます。社長の干し柿は食べ出したら止まらなくて、毎年一気に食べてはたります(笑)。



重松 順子

古賀
ちはるの
旬
な
ハナシ

秋の夜長は読書に最適。今回は目に優しい夜の読書のコツを。読書に適した照明は200ルクス程度の室内照明の他に読書用スタンドを左前方に置き、本は目から25~30cmの位置に置きましょう。スタンドの光が直接目に入ると、

目が疲れる原因になるので注意を。また、寝て本を読むのは目に最もよくない姿勢です。時々目をつぶったり、遠くの景色を見たりして目を休ませましょう。10月10日は目の愛護デー。目を労わることを忘れずに。



私たちは、皆さまを新たな発展と飛躍へ導く“翼”となります。

秋の訪れとともに、一步踏み出します。



昨年と同じく今年も9月中旬から、ベトナムで開催された健康食品の展示会に出展してきました。その様子は次のページで重富のほうからご報告させていただきます。今年はその後も10月中旬まで、シンガポールで開かれる「九州フェア」に出展する予定です。シンガポールは昨年2度ほど視察に行き、私がASEAN進出の拠点にしたいと強く思った国でした。今回の出展で一步踏み出していけたらと思います。

シンガポールは平均寿命が日本とほぼ同じで、少子高齢化が進んでいます。国の成熟度としては、ベトナムが小学生、タイが中学生、シンガポールは大学生と言われたりします。すでに成熟した国に販路を求めても苦戦するという意見も確かにありますが、私には、時差1時間、安全で英語が使える文化圏であるシンガポールが、ビジネスの拠点として魅力的です。何より、シンガポールにはASEANの人々が買い物に集まってくる地理的優位点は魅力です。

暦の上ではもう10月。秋の真っ只中ではありますが、まだしばらくは夏服でこの秋を乗り切りたいと思います。より多くの方に日本製品の良さを知っていただく一端を担う存在になりたいと思っています。

株式会社ORTIC
代表取締役
印藤 晴子





重富幸治郎のOEMワンポイントSpecial

「Health Care展示会」レポートinベトナム

ホーチミンの街には、日本人がいっぱい。

右の写真はベトナム・ホーチミン市にある展示会場となったホール。昨年と同じ会場です。もう1枚はホーチミン市のホテル、パークハイアット。ベトナムの6星ホテルとして有名です。近代化の進むベトナムの街を象徴する建物のように感じました。

昨年と変わらず、ホーチミンの街は活気に溢れていましたが、変化がはっきりわかったのは、街に日本人の姿が増えたということです。レストランでもスーパーでも日本人を多く見かけました。それも観光客ではなく、ホーチミンで生活しているようなのです。日系企業のベトナム進出が増えている証拠ではないかと思えます。



弊社のブース

出展企業も増え、ASEAN注目のイベントに。

「Health Care」をテーマにしたこの展示会には、医療機器、健康食品、介護用品など様々な商品が紹介されています。出展していたのは韓国、中国、台湾などのアジア諸国のほかに、アメリカやヨーロッパの企業もありました。日本のブース「Japan Health Care」には弊社を含む6社が出展しました。出展するためにはベトナム保健省が認可する証明書が必要なのですが、それにもかかわらず昨年よりも多くの企業が出展していました。昨年は広いホールの隅に空きスペースがあったのに、今年は隅々までブースで埋め尽くされていたからです。イベントの認知度も年々高くなっているようです。

来場者に一般消費者だけでなく、医療関係者やドラッグストアのバイヤーなどが多いのもこの展示会の特徴。ベトナム国内にとどまらずASEAN各国からたくさんの方が集まり、熱心に商品の説明を聞いていました。市場として確かな手応えを感じました。



日本企業ブース。全員、白衣着用がルール

『梅肉黒酢』出展2年目の成果と今後の展望。

弊社が『梅肉黒酢』を出展して2年目。嬉しい出来事がありました。昨年ブースを訪れてくださったお客様に商品サンプルをお渡ししていたところ、今年もブースを訪ねてくださり、『梅肉黒酢』の効果が実感できたので、具体的な商談を検討したいと言っていただけなのです。

1年がかりの種まきでしたが、じっくり時間をかけたぶん、評価していただけただけことがとても嬉しかったです。まだまだ小さな芽生えですが、大きな自信につながりました。

弊社の商品を多くの方に認知していただくための出展から、商談や契約に移っていくための出展へと成長できるよう、今後も機会を逃さずアピールしていきたいと考えています。



展示会場となったホール



ホテル・パークハイアット



通訳のトレーシーさんと記念撮影



それ、ウソです

丸山寛之

第71回

早期治療の限界

症状が出た場合の治療には、スギ花粉症と同じ抗ヒスタミン薬などの飲み薬や人によっては鼻にスプレーをするステロイド薬などが使われる。症状がひどくなる前の早期治療で症状を緩和すれば、翌年の症状も強くならない。「体とところの通信簿 秋の花粉症」=朝日新聞2012年9月10日

秋にも花粉症がある。その予防と治療について解説した記事の結末の一節だが、「早期治療で症状を緩和すれば、翌年の症状も強くならない」は、ウソだ。対症療法の効果がそんなに長く続くわけがない。

花粉症の予防・治療法は。①抗原の回避・除去②薬物治療③手術的療法④減感作療法—の四つ。

①は抗原(花粉)の防御。マスク、めがねを用い、花粉が体内に入るのを防ぐ。外出から戻ったら玄関先で帽子や衣服についた花粉を払い落とし、目、鼻、手を洗い、うがいをする。

②には予防薬と対症薬がある。

予防薬(抗アレルギー薬)は毎日服用して1~2週間後から効果が出てくる。そろそろ花粉の飛散が始まると予測されるころ飲み始めると、発症が予防できる。完全な予防はできなくても症状を軽くすることができる。

症状を抑える対症薬には、飲み薬(抗ヒスタミン薬)、点鼻薬(局所性ステロイド薬)、点眼薬(抗ヒスタミン薬、局所性ステロイド薬)がある。

③は、鼻の粘膜をレーザーで薄く焼くか、切除する方法。花粉の飛散が始まる前にこれをやっておけば、そのシーズンの発症はほぼ完全に防げる。

④は、微量の抗原エキスを注射し、体を慣らしていく方法。最初の8ヵ月ないし10ヵ月までは毎週1回、そのあと3ヵ月は2週間に1回、さらにそのあとの3ヵ月は3週間に1回と回数をへらしていき、5、6年目からは3~4ヵ月に1回…。これを10年やれば9割の人が花粉症と手を切ることができる。

丸山寛之プロフィール

医療ジャーナリスト。NPO法人日本医学ジャーナリスト協会会員。1932年、鹿児島県生まれ。新聞記者、医学雑誌編集者を経て医療ライター。1960年代初めから面接取材した医師・医学者は優に1000名を超える。著書=「がんはいい病気」(マキノ出版)「読むサプリ」(明拓出版)「この酔狂な医者たち」(草思社)「ビジネスマン元氣術」(日本マンパワー出版)など。雑誌「壮快」に「名医に聞く」連載中。Webサイトに「健康1日1話」<http://www.maru-san.info/>を開設している。



一というわけで、前掲記事の「症状がひどくなる前の早期治療」が、②の薬物治療を指しているのは言うまでもない。しかし、その効果が及ぶのはそのシーズン中のみであり、もう一度言うが、「翌年の症状も強くならない」なんてことは、あり得ない。

秋の花粉症は、風邪と間違われやすい。このごろ、くしゃみ、鼻水、よく出るな。朝晩の冷えのせい? と思っっているあなた、それ、もしかしたら、花粉症かもしれないヨ。

風邪と花粉症の見分け方は一、

風邪だったら2~3日すると色のついた粘り気のある鼻水に変わる。

水っぽい透明な鼻水が3日以上も続き、目がかゆく、晴れた日にはくしゃみ連発…というような場合は、花粉症の疑いが大きい。

秋の花粉症の原因植物は、ブタクサ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、コスモス、ススキなど。花の咲く位置が低いから花粉はそれほど遠くへは飛ばない。

そのうえ夏の日照りが長く続くと枯れる草も多く、花粉は減る。

一方、気をつけなければいけないのは、スギ花粉症の季節はずれの発症だ。

猛暑の夏のあとは、10月から11月にかけて杉の木の花が一部開花する「狂い咲き」がある。

今夏の全国的炎暑延々はハンパじゃなかったし、スギ花粉は遠くの空からふつてくる。

この秋は、ブタクサなどよりスギ花粉症のほうが一大事になりかねない。

気がかりな人は、早めに耳鼻咽喉科へー。

いまは、眠くならない、作業効率も落ちない、いい薬が出ている。

